

Okubo, M., Ishikawa, K., & Kobayashi, A. (2013).  
Smile intensity and hemifacial asymmetry for perceived trustworthiness.  
2013 Psychonomic Society Annual Meeting,  
Sheraton Centre Hotel in Toronto, Ontario, Canada.

大久保 街亜

今年度のPsychonomic Society の年次大会はカナダのオンタリオ州トロントで行われた。世界一住みやすい都市としてランキングされることが多いこの街は、人口の面からはカナダ第1の都市である。面積も広い。広大で人口が多いにも関わらず、都市としてきちんと整備されており、治安も良い。生活するにはとても良いところであることがひとりの旅行者の立場からもよくわかる。一方で、とくにめばしい名所もなく、旅行先として魅力的かどうかはよくわからない。もちろん、今回は学会大会への参加であるから、そのあたりはあまり大きな問題ではなかった。



図1：学会発表の様子

Sheraton Centre Hotel in Torontoで開催された今回の学会大会は、相変わらず盛況であった。初日はElizabeth Loftus による基調講演ではじまり、数々のセッションで最先端の知見が披露され、それらに基づき討論が行われた。

我々の発表はポスター形式で行われた。当日の様子を図1に示した。今回の学会発表は、我々の研究室で取り組んでいる、顔を刺激とした信頼感の認知に関する一連の研究成果の一つである。信頼感の認知について、表情の効果とその左右差の直接的な関係があるか検討した。実験の結果、社会交換において裏切り行為を多く行うものは、作り笑顔の感情強度の上昇とともに、見た目の信頼感も上昇することが示された。このような作り笑顔の感情強度と見た目の信頼感の関係は、裏切り行為を行わないものでは観察されなかった。この結果は、社会的交換における裏切り者が、作り笑顔を巧みに浮かべることによって、見た目の信頼感を上げ、ひいては、裏切り者として検知されることを逃れていることを示唆する。

顔の信頼感というわかりやすい研究トピックのため、発表当日は多くの参加者が我々のポスターを訪れ、活発な討論がなされた。この議論を参考に、現在この成果を論文としてまとめている。